

ツールの問題点

木造軸組構法住宅の耐震診断ツール

平成 29 年 12 月 1 日

この木造軸組構法住宅の耐震診断ツール“耐震チェックマン”（以下、ツールと記載）は、専門家（建築士等）でない一般の方でも、耐震診断法の一般診断法を手っ取り早く行っていただくことで、我が家の耐震性を数字で把握することができることによるメリットを目的としています。

一般診断法以上を用いた耐震診断は、専門家に行っていただくことを前提としています。それは、耐震診断には専門的な知識が要求され、その住宅に存在する耐震要素の評価と、劣化状況（傷み具合、老朽化）の評価が重要になるからです。

このツールでは、専門的な知識がなくても手っ取り早く一般診断法を用いることができるため、ツールの入力によっては耐震要素が過大評価されたり、劣化状況が過小評価された診断結果になります。その診断結果を鵜呑みにしてしまうと、耐震補強に対する意欲を低下させることになりかねません。このツールが耐震補強の積極的な実施を邪魔するものになってしまいます。それは、このツールの目的と正反対のものです。

このツールによって得られた診断結果が、診断を行った住宅の耐震性を保証するものではないことを十分にご承知いただきますよう、お願いいたします。

このツールを使用していると、耐震要素の入力や、柱頭柱脚接合部の仕様の選択など、木造住宅の耐震性がどのような要素によって構成されているかを知ることができると思います。ツールの問題点をご理解の上で、耐震性に必要な要素を知っていただき、我が家の耐震性に対する考えを深めていただけることを願っています。

作者：IT3